

## 令和4年度 第3回 帯広市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日 時：令和4年7月22日（金）13時30分～14時50分  
場 所：帯広市役所 議会棟3階 全員協議会室  
出席委員：和田会長、長沢委員、小森委員、道見委員、千葉委員、石崎委員、近藤委員、塚本委員、齊藤委員、酒井委員、久保委員、山田委員、大江委員、桐山委員、加藤委員、村木委員、永田委員、佐藤委員、鳥本委員（野崎代理）、西島委員（以上20名）  
アドバイザー：北海道大学大学院 岸 邦宏 教授  
事務局：篠原都市建築室長、岡田都市政策課長、涌井交通政策係長、千葉主査、屋仲主任、豊田主任、川筋主任補  
配布資料：会議次第、出席者名簿（資料1）、令和3年度地域新MaaS創出推進事業 事業概要（資料2）、令和4年度地域公共交通共創モデル実証プロジェクト 事業概要（資料3）、令和4年度 市内公共交通の維持確保に向けた取組について（案）（資料4）、帯広市地域公共交通計画策定調査委託業務 実施内容（案）（資料5）、令和4年度帯広市地域公共交通計画策定スケジュール（予定）（資料6）、おびひろバスマップ（令和3年7月1日版）（参考資料）

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 アドバイザー挨拶
- 4 議 事
  - (1) 報告事項
    - ・報告第1号 帯広市における新たな地域公共交通維持確保に向けた取組について
  - (2) 協議事項
    - ・議案第1号 市内公共交通の維持確保に向けた取組について
    - ・議案第2号 帯広市地域公共交通計画策定に向けた調査の実施について
  - (3) その他
- 5 閉 会

### 【会議概要】

#### 4 議事

##### (1) 報告事項

- ・報告第1号 帯広市における新たな地域公共交通維持確保に向けた取組み

≪事務局より資料2及び3に基づき説明≫

≪長沢委員より補足説明≫

##### ○「マルシェバス」について

- ・令和3年12月5日から令和4年2月末まで、週2回実施。
- ・期間中延べ300人以上の利用があった。
- ・旅客運送収入以外の新たな収益源として期待している。
- ・現状、停留所などでの路上販売ができないため、今後の課題として関係者と連携して検討していきたい。
- ・成果としては、こういった車両が地域に来ることで、そこに住民が集まり井戸端会議のような会話、コミュニティが生まれたことが挙げられる。
- ・まちづくりと一体となった取組みと考えており、こうした取組みを通じて公共交通と地域住民とのつながりを持っていきたい。
- ・実証事業は終了したが、今後の本格事業化に向けて検討しているところ。

○「共創モデル事業」について

- ・本プロジェクトには 20 団体・企業が参画している。
- ・外出しないと楽しめないこと、できないこと、といったことを提案していくため、多くの参画団体の知見を借りながら取組みを進め、公共交通の維持発展につなげていきたい。

(2) 協議事項

- ・議案第 1 号 市内公共交通の維持確保に向けた令和 4 年度の取組みについて

《事務局より資料 4 に基づき説明》

(会長)

今年度の取組を実施するにあたっての課題や今後の展開の方向性など、意見等あるか。

(委員)

今回新たに追加された乗務員確保の取組に関して、ここ 1 年の実績で、募集をかけても応募がほとんどなく、運転手不足により路線の維持そのものが困難となっている状況。

帯広市における首都圏 PR の際に、帯広市への移住に向けた取組と連携し、北海道・十勝の魅力とともに就職先として運転手もある、ということ発信していかなければ運転手確保は非常に厳しいものと考えている。交通事業者としても一緒に取り組んでいきたい。

(委員)

スマートフォンによる定期券を実装しており、今後デジタルサイネージ事業、外国人向けアナウンスの整備なども進めていく必要があるものと考えている。

ダイヤの関係では、バーコード整理券対応の運賃箱により詳細な乗降データが蓄積されており、利用実績を踏まえたダイヤの見直しについて、十勝バスや帯広市と協議しながら計画を立てる必要があるものと考えているので、今年度実施される調査事業なども踏まえ、一緒に検討していきたい。

(委員)

コロナ禍の中ではあるが、地域でようやくイベントが行われつつあり、先日も利用促進の呼びかけなどを行った。コロナによる外出自粛が 2 年以上続き、地域住民に対し利用方法などの説明になかなか伺えない状況にあったが、今後そういった機会が増えてくるのではないかと考えている。

(委員)

高齢の利用客について、予約時などに違和感があった場合、地域包括支援センターの職員と連絡を取り、巡回の中で訪問してもらおうといった取組をしている。そうした利用客をフォローするプラットフォームが何かあったほうがいいのか、ということをご数年感じている。

(委員)

バス事業者や多くの IT 企業においてキャッシュレス化、デジタルチケット化を進めており、利用者にとっては選択肢が多くて良いという面がある一方で、乗務員や管理部門がデジタル化に対応するのが大変な状況となっている。公共交通や交通以外のところでも、一つのプラットフォームがあることで生活全体がスムーズになり、公共交通の利用促進にもつながるのではないかと。

(委員)

JR は基本的に通学利用が多いが、これからは観光客を含め、二次交通としてバスやタク

シーとの乗り換えのわかりやすさやシステムを活用した案内などをいかに進めていくかが課題と考えており、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

また、この度、帯広駅前にサービス付き高齢者住宅を建設したので、駅周辺に高齢者が集まり、駅の利用増につながっていくことも期待されるため、そうした方々向けのわかりやすい案内を他の交通事業者とも連携しながら取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

コロナが始まって以降、市内のタクシー乗務員の減少は全体の約20%に達する勢い。これは帯広市に限った話ではなく、全国的にタクシー乗務員の減少が続いている。タクシー運転手の平均年齢は、全道平均の約60歳に比べて十勝管内では約65歳と高く、コロナに対する恐怖などから離職するケースがほとんど。

運行状況について、夜間の利用がまだ少し少ない状況だが、日中の高齢者の通院などはコロナ前の水準まで回復してきており、日中の一時的に利用が集中する時間帯になるとタクシーが足りず、電話予約してからの待ち時間が平時の2倍にまでなっている。何かしらの手を打って乗務員確保を進めていかなければ、という危機感は全ての事業者が持っている。

また、道内のコロナ感染者が増加している中、事業者や運転手の考え次第ではあるが、発熱外来やドライブスルー検査専門のタクシーなども考えている。

(委員)

乗務員確保に向けた今後の取り組みに期待している。

最近では普通免許取得後に二種免許取得が可能となる期間の規制が緩和されたが、これまで様々な規制が強く、現実的な対応ができないということが多々あった。

元々、乗務員不足はコロナに関係なく発生していて、このままの状況が続けば運転手の高齢化が進み、定年延長を限界までやらなければ公共交通を維持できないと思っている。公共交通の運転手の仕事が敬遠される要因を深掘りし、それを解決していれば公共交通の維持につながるのではないかと考えている。

(委員)

乗務員不足は非常に大きな問題になっていて、これを待遇面だけで解決しようとする本州の同業他社に負けてしまうように思う。帯広市は全道で住みやすい街ナンバー1、ということで地元紙に取り上げられていたので、こうした街の魅力とともに帯広市がフォローしながら乗務員の募集に取り組んでいけば、交通事業者の一助になるのではないかと。

(アドバイザー)

資料記載の項目についてはどれも大事なことなので、このような形で進めていけば良い。

地域公共交通計画にどのように盛り込むかということはあるが、話を聞いていて、交通事故のみならず車内の治安などの安全対策も大事な時代かと感じた。運転手と乗客、あるいは乗客同士のトラブルに関するニュースも報じられているところで、これは運転手にしてみても大事な労働環境の一つであり、防犯対策など、今後検討してもよいのではないかと。

もう一つは、高齢者支援の話があったが、利用客の車内での様子や予約の場所にいないなどの異変があったとき、労務負担のこともあるが、運転手が見守り隊の一員としての役割を担える部分もあろうかと思う。それは先ほどのプラットフォームの話にもつながり、最終的には福祉関係や警察などと上手く連携するなど、将来に向けて何か取り組めることがあるかと思ったところ。

(会長)

令和4年度の取組として、案のとおり進めるということによろしいか。

《異議なし》

・議案第2号 帯広市地域公共交通計画策定に向けた調査の実施について

《事務局より資料5に基づき説明》

(会長)

事務局の調査案について意見等あるか。

(委員)

説明にあった「おびひろバスマップ」のような資料をなかなか私生活の中で目にする機会がなく、市民の目に本当に入っているのかわからない。コミセンやバス車内など市民が目にする場所に掲載するなど、活用方針を検討していく必要があるのではないか。

(委員)

調査において現状の利用実態は把握できると思うが、今後利用するかもしれない潜在的な利用者に関する調査についても検討を進めてもらえると良い。

また、路線図を見るとほぼ市内全域がカバーされているが、細かく見ていくと便数が1日3便しかない路線などもあるので、増便すれば利用者が増えるのか、路線再編をしていく上でもどこを走らせたらいいのか、といったことなどについて調査方法も含めて検討してもらいたい。

(委員)

中心部の事業者を抜粋し、従業員がどのように通勤しているのかといった調査もあれば。

(委員)

帯広駅は、交通結節点ではあるものの目的地ではないという現状がある。これからの帯広市の交通を考えるときに、交通結節点をもっと増やして乗継環境の改善、人が集まる拠点を整備していく必要があるのではないかと感じており、そのような調査があると良い。

(アドバイザー)

潜在需要については、北海道の総合都市交通体系調査、いわゆるパーソントリップ調査で分析ができるのではないか。今回の公共交通の調査では、バス利用者に特化して、どこからどこまでどれくらい乗っているのかを調査できるし、パーソントリップ調査では、実際に車で移動しているのはどれくらいかというところを調査し、来年度現況解析、再来年度から将来需要推計を行う予定のため、詳細な分析ができるものと思う。

今年度から地域公共交通計画の策定を進めるが、計画策定後もPDCAにおいて総合都市交通体系調査とうまく連動できればと思う一方で、こちらの調査でもインタビューなどである程度潜在需要の検討ができればよい。

十数年前に帯広圏で行った前回のパーソントリップ調査では、車を使う人が90%以上、バスを使っている人が5%程度で、分担率モデルを作っても、どのような対策を取っても5%が20、30%に上がることはないため、利用促進を仕掛けた場合の分析について検討する必要がある。

また、交通結節点の話については同感で、資料3ページ目(エ)の帯広厚生病院への直行便を望む人が多くなるかと思うが、帯広駅バスターミナルを拠点とするところをすべて崩すわけにもいかないのではないか。どこで乗継をするかということになると思うが、乗継するとしたらどういった乗継場所があればいいか、といった観点からインタビューあるいはワークショップで聞き取るのが良いのではないか。

(会長)

パーソントリップ調査の活用も有効と考えられるが、パーソントリップ調査よりも公共

交通計画が先に策定されるため、今回の計画策定の段階では今後の動向を見極めたうえで取組の方向性を示し、その後に計画に基づき具体的にどう展開していくかを検討していくやり方も考えられる。今回の調査でどういう形でどこまでできるかということ、今後協議しながら組み立てていきたい。

他に意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

それでは、ただ今の意見を踏まえ、次回具体的な調査内容について議論することとした。議案第2号については、この案の形で進めることとしてよろしいか。

《異議なし》

(3) その他

(会長)

全体を通して意見等あるか。

《発言なし》

(会長)

最後に事務局から事務連絡がある。

(事務局)

本日協議した調査業務委託の内容に基づき、8月初旬を目途に委託事業者の選定を行い、8月中旬頃に委託事業者及び関係先と調査内容、スケジュール等の調整を行う予定。調整後、具体的な調査内容及びスケジュール案について確認のため、書面協議を実施したい。

このほか、今年度の計画策定に関する全体スケジュールは資料6に記載しているので、確認願いたい。

(会長)

以上をもって閉会する。

《閉 会》